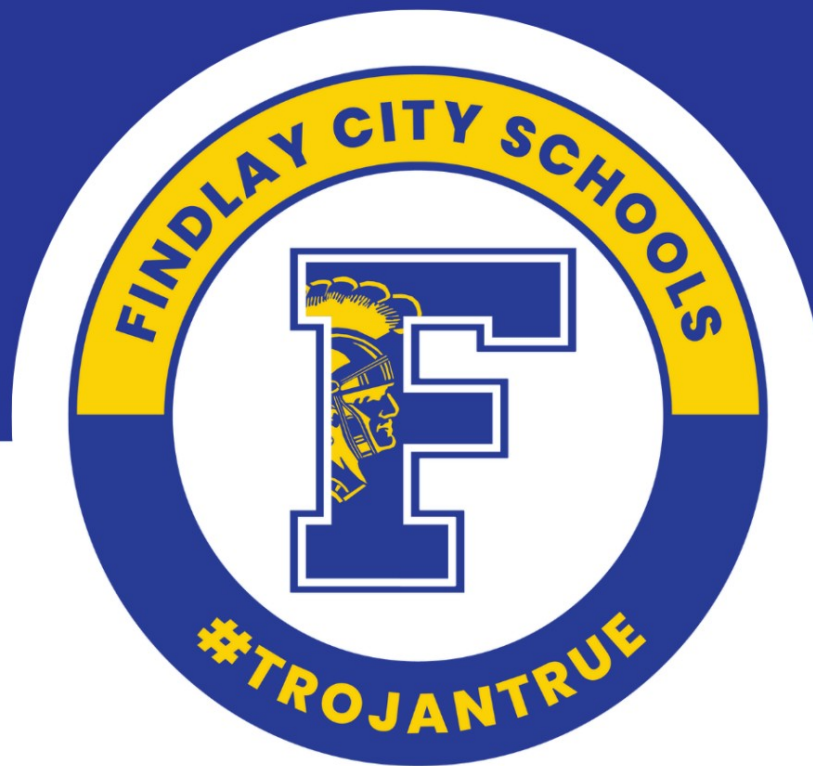


FINDLAY CITY SCHOOLS K-5 STUDENT HANDBOOK



目次

行動の期待と行動	4
積極的な行動介入と支援	4
学生行動規範	5
学生への薬の投与	13
出席	14
自転車/スクーター	16
誕生日	17
バス政策	17
学校の休校または延期	19
ドレスコード	19
適正手続きと控訴	19
緊急医療フォーム	20
料金	20
フィールドトリップ	20
いじめ、デートDV、いじめ	21
アタマジラミ	27
宿題	27
営業時間	27
個人物品の識別	27
予防接種	27
ランチタイム	28
禁煙	28
看護師	28
写真リリース	28
進捗報告	28
休み時間/遊び場	28

記録	29
安全に関する注意事項	29
学生へのスナックの販売	29
学校カウンセリング	30
学生名簿公開	30
援助を求める学生	30
テクノロジーと1:1デバイス	30
生徒による電話の使用	31
校舎の利用	31
休暇ポリシー	31
学校への訪問者	31
退学	32
暴力に対するゼロトレランス政策	32
暴力に対するゼロトレランス政策	32
差別禁止ポリシー	32
フインドレー市教育委員会政策マニュアル	

このハンドブックは、同じ主題について以前に提供されたすべてのハンドブックおよびその他の書面資料に代わるものです。ハンドブックは学生に対する取り消し不能な契約上の義務を意味するものではなく、現在の状況を反映するものである。理事会の方針と学校の規則の状況。参照されている方針または管理ガイドラインのいずれかが本規定が改訂された場合、最新のポリシーまたは管理ガイドラインの文言が優先されます。

理事会のポリシーと管理ガイドラインは、地区のウェブサイトでご覧いただけます。

行動規範と行動規範誰もが認識するように、学校は合理的

な規則と責任感のある生徒なしには効果的に運営できません。自制心を発揮し、自分の行動に責任を持つことは生徒の責任であると強く信じられています。しかし、この理想は必ずしも実現されているわけではありません。

規則違反および不正行為は段階的に対処されます。教室、校庭、またはカフェテリアで不適切な行動をとった生徒への措置には、警告、保護者面談、居残り、カフェテリアおよび/または校庭の利用権の剥奪、校長への報告が含まれます。重大な違反行為については、保護者に通知されます。規則違反の繰り返しや重大な不正行為で校長に報告された生徒への措置には、教育委員会の方針に従った懲戒処分（JGD、JGDA、JGE、停学、緊急退学、退学など）が含まれる場合があります。バスの規則違反は、乗車権の剥奪につながる場合があります。

（JFCCおよびJFCC-Rの方針をご覧ください）。保護者の皆様には、このハンドブックに記載されている学校での適切な行動に関するルールをお子様と一緒にご確認ください。お子様の行動上の問題に関してご連絡をいただいた場合は、問題解決に向けてご協力をお願いいたします。保護者の皆様のご支援は、常に感謝しております。皆様のご協力により、お子様の充実した学年生活を確実に送ることができます。

学校一般規則

1. 生徒は整然と建物に入り、自分の部屋に直接向かいます。
2. 生徒は常に廊下を歩きます。
3. 授業中に廊下を移動する際、生徒は会話を控え、
他のクラスで学習している生徒の邪魔になりません。
4. 生徒は大人のスタッフの指示に従う。すべての大人のスタッフは
Dr., Mr., Mrs., または Miss と呼ばれます。
5. 生徒は互いに敬意を持って接し、礼儀正しく接することが期待される。
生徒は、他の生徒に対する脅迫、からかい、悪口、嫌がらせ、侮辱などの行為を慎むこととします。
6. 生徒は他の生徒に迷惑をかけたり、怖がらせたり、
生徒は、殴ったり、パンチしたり、蹴ったり、つかんだり、レスリングしたり、喧嘩したり、つねったり、噛んだり、「ごっこ遊び」をしたりしてはいけません。
7. 生徒は授業や学校の邪魔にならないように行動します。
8. 卑猥な言葉や暴言は禁止されています。
9. おもちゃ、ノベルティ、電子ゲーム、運動器具、ローラーブレード、スケートボードなどは持ち込み禁止です。
家から学校へ持って来られます。
10. 記載されていないが、個々の子供の健康と安全を危険にさらす可能性のあるその他の行為
または他の生徒への迷惑行為は禁止されています。
11. 授業時間中は携帯電話や携帯電話時計を使用しないでください。

積極的行動介入と支援（PBIS）

フィンドレー市立学校を安全で、居心地が良く、目的意識のある学習環境とするために、私たちはポジティブ行動介入支援（PBIS）と呼ばれる枠組みを導入しました。PBISは、生徒が学業上の潜在能力を発揮できるよう積極的に促すと同時に、良好な学習環境を示します。

行動を通して人格形成を促す。フィンドレー市立学校では、学校のあらゆる場面で、敬意、責任、安全を重んじ、前向きな行動を指導し、奨励することに重点を置きます。学校に誇りを持つ生徒は、学習機会を最大限に活用し、クラスメイトの学習機会を損なったり妨げたりすることはありません。

PBIS学校は、適切な行動の定義、指導、支援のための戦略を含む、学校全体の支援システムを重視しています。目標は、すべての生徒にとって最良の成果をもたらす、可能な限り最も効果的な学習コミュニティを構築することです。学校全体、教室、そして個々の支援システムの構築と維持に重点が置かれています。従来の学校が一般的に行ってきた対応（生徒の不正行為に対する懲戒）とは異なり、PBISは行動規範を教え、それに従う生徒を褒めるという積極的なアプローチを採用しています。成功するPBIS学校は、適切な行動が当たり前の環境を育みます。行動フローチャートと行動規範を記載したマトリックスは、すべての共用エリアと教室に掲示され、指導され、強化されます。

学校の期待は、登下校時、学校内、学校敷地内、学校主催の行事、スクールバス内、そして理事会が所有または管理していないが、理事会が所有または管理する敷地内で発生した活動や事件に関連する敷地内にも適用されることを覚えておくことが重要です。場合には、スクールバスの規則に違反した生徒はスクールバスの利用を停止されることがあります。

学生行動規範

私たちは、生徒の積極的な選択を奨励しています。なぜなら、こうした選択こそが、効果的な学習に必要な良き行動の雰囲気醸成からです。私たちの責任は、学びのためにここにいる大多数の生徒に対してあります。生徒が誤った選択をすることは稀ですが、もし誤った選択をしてしまった場合には、その選択がもたらす結果について生徒に適切な警告を与える必要があります。積極的な学習体験ができる教育環境を確保することは、私たちの義務であり責任です。学生行動規範は、この目的を果たすために制定されています。

以下の行動規範は、生徒が学校敷地内、学校主催の活動、またはその他学校関係者の管轄下にある場合に適用されます。また、不正行為が学区が所有または管理する施設で発生した活動または事件に関連する場合、または不正行為が学区の職員または従業員、あるいは学区の職員または従業員の施設に向けられたものである場合は、学校敷地外でもこれらの規範が適用されます。生徒が以下の行動規範のいずれかに違反した場合、または学校敷地内または学校の管轄下にある間に行動規範に違反している生徒を幫助または教唆した場合は、懲戒処分（口頭または書面による警告または訓告、スクールカウンセラーへの照会、保護者との面談または面談、社会奉仕活動、放課前、昼食、放課後の居残り、校内課題、停学、緊急退学、退学、または適切な当局への訴追を含む、管理者が適切と判断するその他の代替措置を含む）の対象となる場合があります。

教育長、校長、または副校長は、行動規範に違反した生徒を最長10日間停学処分にすることができます。教育長は最長80日間、場合によっては1年間、生徒を退学処分にすることができます。停学または退学処分を受けた生徒は、学校敷地内への立ち入り、学校行事や競技会への参加、学校が管理する敷地内への立ち入りは禁止されます。学校側は、災害や不測の事態が発生した場合、独自の裁量でALCまたはOSSの日程を変更する権利を有します。

課外活動や学校行事（リーダーシップチーム、校内行事など）は権利ではなく特権です。行動規範に違反した場合、これらの特権の剥奪に加え、他の学校規律の対象となる場合があります。この規範の遵守は必須です。

1. 学校の混乱

生徒は、行動、言葉、身振り、画像、テクノロジー、暴力、強制、威圧、脅迫、嫌がらせ、不服従、または度重なる非協力的行為によって、すべてのカリキュラム、課外活動、運動、課外活動を含む教育プロセスを妨害または阻害してはなりません。生徒は教室などの学習エリアにのみ入室が許可され、正当な学校関連活動に従事していない限り、授業終了後は速やかに退校することが求められます。学校の妨害行為には、理事会、教育長、または校長が随時定めるその他の規則を遵守しないことも含まれます。

2. 学校施設への損害

生徒は、学校の建物、敷地、設備、資材などを含む学校の財産に損害を与えたり、煽動したり、損害を与えようとしたりしてはなりません。損害を受けた財産については、学校による処分に加えて、交換または修理費用が課される場合があります。

3. 私有財産への損害

生徒は、私有財産（学校敷地内外、または学校行事における学校職員の私有財産を含む）に損害を与えたり、煽動したり、損害を与えようとしたりしてはなりません。損害を受けた財産の交換または修理には、学校による処分に加えて費用が課される場合があります。

4. いじめと新入生への嫌がらせ

生徒は、生徒または他の者をいじめたり、しごき立てたりしてはなりません。しごき立てとは、生徒または他の組織への入会勧誘行為を行うこと、または被害者を含む他者に対し、精神的または身体的危害を引き起こす、または引き起こす重大なリスクを生じさせる行為を行うことを強要することを意味します。いじめ、嫌がらせ、脅迫とは、生徒が特定の生徒に対して複数回、書面、口頭、電子的、または身体的な方法で意図的に行う行為を指します。この意図的な行為には、交際関係における暴力も含まれます。これらの行為は、他の生徒に精神的または身体的危害をもたらし、かつ、他の生徒にとって威圧的、脅迫的、または虐待的な教育環境を作り出すほど深刻、持続的、または蔓延している場合に限り、この行為は、学校の敷地内、スクールバス内、または学校主催の活動において禁止されています。写真を含む学校の出版物は著作権で保護されており、書面による許可なしに写真を使用することは固く禁じられています。ネットいじめを含むいじめ行為を行った生徒は、停学処分を含む処分を受ける可能性があります。いじめを報告した後に嫌がらせや報復を受けることを恐れる生徒は、副校長またはガイダンスカウンセラーに相談してください。生徒はいじめの事実を学校職員に報告することができ、匿名でも報告できます。また、FCSのウェブページから報告を提出し、管理者のメールアドレスに直接送信することもできます。

いじめについて虚偽の報告をした者は、停学処分を受ける可能性がある。

5. 許可されていない身体接触（レベルII,III）

学校敷地内または学校管轄下の行事に参加中に、生徒、学校職員、またはその他の人物に身体的に触れたり、殴ったりする行為。他の生徒（以下を含む）の不正行為を助長する生徒。

喧嘩（暴力行為）を行った生徒は、暴力禁止規定に違反した場合と同様に懲戒処分を受けることがあります。初犯の場合、喧嘩に関わった生徒は10日間の停学処分、または退学勧告を受けることがあります。

- レベル I - 許可されていない接触（人対人または物）

押す、突く、拘束する•レベルII—2人以

上の生徒が故意に身体的危害を加えることはできない

（喧嘩）したり、学校の管轄下にある間、お互いにまたは他の人に身体的危害を加える恐れのあるような行動をしたりすること。• レベル III — 生徒は、学校の管轄下にある間、危害や身体的傷害を与える意図の有無にかかわらず、他の人（学校職員、他の生徒）を攻撃しようとしたり故意に攻撃したり、身体的傷害を引き起こす恐れのあるような行動をしたりしてはなりません。

6. 危険な活動、武器、および器具生徒は、生徒、教師、またはその他

の学校職員の健康または安全を脅かす、危険にさらす、または脅かす傾向のある活動に従事してはなりません。生徒は、武器または暴力行為の道具とみなされる可能性のあるいかなる物品も所持、取り扱い、譲渡、または隠匿してはなりません。類似の武器は本物の武器として扱われます。

銃器の定義は、爆発物の作用によって発射体を発射するように設計されているか、または容易に改造できる武器（スターターガンを含む）、そのような武器のフレームまたはレシーバー、銃器の消音器、銃器のサイレンサー、または爆発性ガス、焼夷性ガス、有毒ガス、爆弾、手榴弾、4オンスを超える推進剤を充填したロケット、1/4オンスを超える爆発性または焼夷性ガスを充填したミサイル、地雷、または上記のいずれかに類似する装置を含む破壊装置（18 USCA Section 921の定義による）です。ナイフは、深刻な身体的傷害を引き起こす可能性のある鋭利な刃を持つ切断器具と定義されます。

次の両方に該当する場合、生徒は学校の敷地内、学校または校舎内、学校行事中、または学校の車両内で故意に物体を所持することを禁止されます。

1. 当該物体が銃器と区別がつかない場合、
発射可能です。
2. その人がその物体を所持しており、それが銃器であることを示す、または、その人が故意にその物体を展示または振り回し、それが銃器であることを示す。

州法の定義および本ポリシーの目的上、「銃器と区別がつかない物体」とは、銃器に関する専門的な訓練を受けていない一般の人にとって銃器のように見えるように製造、構築、または改造された物体を意味します。

3. このポリシーは、上記のいずれかを学校の敷地内、学校の車両、課外イベント、または学区が主催するその他のプログラムや活動に持ち込む場合に適用されます。

4. こうした行為の例としては、火災警報器、消火器、AED 機器の改ざん、安全対策やセキュリティ対策の違反、その他地方または連邦法に違反する可能性のある項目などが挙げられます。

7. タバコ/ニコチン生徒は、学

区の管理下にあるエリア内、または学区が監督する活動において、喫煙、タバコ/ニコチンの使用、タバコ/ニコチンを含む物質や器具（電子タバコ、電子リキッド、パイプデバイスを含むがこれらに限定されない）の所持や展示を行ってはなりません。

「見張り」の役割を果たしたり、喫煙者を幫助したり教唆したりする学生は、禁煙規則違反者と同様に懲戒処分を受ける。

8. 麻薬、アルコール飲料、カフェイン錠剤、興奮剤、処方薬、および

その他の錠剤/物質生徒は、校

舎内、学校敷地内、または学校や学校主催の活動への参加中、ステロイド、麻薬、幻覚剤、アンフェタミン、カフェイン錠剤、バルビツール酸塩、マリファナ、アルコール飲料またはアルコール代替品として宣伝されている飲料、吸入剤、薬物関連器具（電子タバコ、電子液体、パイプデバイスを含むがこれらに限定されない）、その他の錠剤/物質、またはその他の精神作用物質を、陳列、所持、販売、販売済み、存在下に置く、伝達する、伝達済み、隠蔽、購入、購入済み、使用、または使用させてはなりません。これには、処方薬および市販薬の所持、販売および/または配布が含まれます。生徒は、偽造または類似薬物を使用、所持、配布、配布済み、販売、購入、購入済み、または包装してはなりません。空のアルコール容器も学校敷地内では禁止されています。偽造規制物質とは、次のように定義されます。•所有者の許可なく商標、商号、または識別マークが付されている、またはその容器やラベルに付されている薬物。

- 規制物質として表示されている物質。• 規制物質以外の物質で、合理的な人が

規制物質であると信じています。

このポリシーに違反した場合の結果は、教育委員会ポリシー JFCH/JFCI およびその他の適用されるすべての懲戒ポリシーに従います。

9. 窃盗生徒

は、学区の財産や備品、または学区の他の生徒、教師、訪問者、または従業員の財産を持ち去ったり、持ち去ろうとしたりしてはなりません。

10. 恐怖、屈辱、または貶めべき行為

学生は、書面、口頭、視覚、身振り、および/または技術的な手段により、教師、学生、またはその他の人を怖がらせたり、侮辱したり、または怖がらせたり、侮辱したり、侮辱したりする傾向のある行為に従事してはなりません。

11. 不服従

生徒は学校職員による合理的な指示を無視したり、従うことを拒否したりすることはできません。

12. スクールバスの送迎生徒は

全員、バス運転手の指示に従い、基本的な安全規則を遵守しなければなりません。

13. 服装と外見フィンドレー

市立学校は、公平な教育へのアクセスと、生徒の個性を安全かつ健全に表現することを支持し、生徒の健康、福祉、安全を確保し、生徒の敬意、前向きさ、非暴力的なイメージを高める服装を心がけます。そのため、学校における学習環境と安全条件を最大限に高めるため、以下の点に留意してください。• 服装やアクセサリは、薬物、アルコール、薬物使用を暗示したり、奨励したりしてはなりません。

タバコ、セックス、ギャング、冒涇、暴力、または民族、文化、宗教、人種、法的に保護されたグループに対して不快感を与える内容。

- 衣服やアクセサリは、安全上の懸念を生じないものでなければならない（武器として使用可能）。

- 衣服やアクセサリは胸、腹部、背中、臀部を覆う必要があります。

過度に肌を露出する服装は、学校環境にふさわしくないとみなされます。• 靴/サンダルは常に着用してください。• 帽子、フード、その他の頭飾り（特定の生徒の許可がない限り）

学校側は、いかなる宗教的理由であっても、顔がはっきりと見え、他人の視界を妨げないものでなければなりません。サングラスは、学校側から特別な許可がない限り、着用できません。

- 重大な傷害を引き起こす合理的なリスクを生じさせる衣類やアクセサリ

授業の妨げとなる服装（仮装、フェイスペイントなどを含む）は禁止されています。ただし、特別な行事などについては、学校側が例外を認める場合があります。• 生徒は、不適切な服装を隠したり、着替えたり、脱いだりするよう指示されるか、帰宅

して適切な服装に着替えるよう指示されることがあります。服装規定に違反した場合、学校からの懲戒処分や、その日の残りの授業時間におけるISAP（国際学生自主学習プログラム）への参加につながる可能性があります。

14. 不登校/過度の欠席/遅刻採択された理事会の方

針が適用されます。

15. セクハラ

このハンドブックの最後に記載されている理事会ポリシー ACAA および規制 ACAA-R を参照してください。

16. 指示、ポリシー、ルールなどの違反

生徒は、教師、教育実習生、代用教師、教師補助員、校長、またはその他の認可された学校職員の監督下にある間は、その指示、方針、規則などに従わなければなりません。

17. 改ざんまたは偽造されたパス/文書学生は

不正な文書を改ざん、偽造、または使用することはできません。

18. 公衆の面前での愛情表現

生徒は、学校の敷地内、学校の保護下にある間、または学校関連の活動中に、不適切な愛情表現や不適切な身体的接触を行ってはなりません。

19. 卑猥な言葉/わいせつな言葉/罵倒

学校敷地内では、卑猥な言葉やわいせつな言葉の使用は認められません。わいせつまたは中傷的な内容を含む、あるいは教育プロセスを妨害し、他者の考えや意見を表明または受け取る権利を侵害する可能性のある資料は、印刷、配布、または閲覧することはできません。

20. 恐喝

学生は、脅迫、嫌がらせ、威嚇、または人身、財産、名誉に対する傷害によって、学生、学校職員、またはその他の人物に対して、価値あるものを放棄するよう強要したり強要しようとしたりしてはなりません。

21. スレー

フィンドレー市学区管理局は、学習を促す環境を作り、学習プロセスを最も促進するために、人種、肌の色、出身国、市民権の有無、祖先、宗教、性別（性的指向および性自認を含む）、経済状況、婚姻状況、妊娠、年齢、障害、または兵役の有無に関わらず、すべての生徒が、あらゆる形態の誹謗中傷、軽蔑、脅迫のない雰囲気の中で教育を受ける権利を有することを認識しています。管理局はさらに、人種、肌の色、出身国、市民権の有無、祖先、宗教、性別（性的指向および性自認を含む）、経済状況、婚姻状況、妊娠、年齢、障害、または兵役の有無を理由に、身体的傷害、脅迫、または嫌がらせを扇動および誘発する目的で個人またはグループに対して特定の行為を行うことは、学校の秩序と安全に対する脅威であり、学校の学習環境に悪影響を及ぼすことを認識しています。民族的脅迫とは、人種または宗教的な中傷、冒瀆的な言葉、人種または宗教的軽蔑的な発言、卑猥なジェスチャー、その他これに類する行為を用いて、個人または集団に対して嫌がらせまたは脅迫を行うことを指します。民族的脅迫の他の形態としては、喧嘩、破壊行為、脅迫などが挙げられ、行動規範の1つ以上の条項に基づいて処罰の対象となります。

22. テクノロジー

コンピュータテクノロジーとネットワークに関するガイドライン

ハンドブック、理事会の方針EDE、規則EDE-Rに記載されているガイドラインに従わない生徒は、ラボでの課題の完了、アカウントへのアクセス、インターネットの使用権を失います。また、追加の懲戒処分または法的措置の対象となる場合もあります。違反が複数回にわたる場合は、学期、学年、または高校在学期間中、コンピュータの使用を禁止される可能性があります。すべてのコンピュータは、いつでも、いかなる理由でもデータ検索の対象となります。学校のコンピュータでは、いかなる時もプライバシー権は認められません。

インターネット フィルターを回避しようとしていることが判明した生徒は、FCS 技術協定に従って懲戒処分の対象となり、初犯の場合、生徒のコンピュータ ネットワークおよびインターネットへのアクセスが停止され、個人用テクノロジー デバイスを学校に持ち込むことが禁止される可能性があります。

携帯電話／個人用通信機器生徒がクラスメイ

ト、教師、そして授業に積極的に参加できる学校環境を支援するため、フィンドレー市立学校教育委員会は、授業時間中の生徒による携帯電話の使用を制限することを決定しました。この方針の目的は、卓越した学力、多様な機会、そして真の帰属意識を通してすべての生徒の夢を叶えるという私たちの使命に基づき、フィンドレー市立学校の学習への重点を強化することです。

I.研究

研究によると、学校での携帯電話の使用は、生徒の成績と精神衛生に悪影響を及ぼすことが示されています。携帯電話は生徒の授業への集中を妨げ、学習効果の低下やテストの成績低下につながります。

携帯電話の使用の増加は、子供たちのうつ病、不安、その他の精神疾患の増加につながっています。

II. 適用範囲このポ

リシーは、授業時間中に学校敷地内にいる生徒が携帯電話を使用する場合に適用されます。

III.携帯電話の使用学生は携帯電

話を常時使用することは禁止されています。

IV. 例外このポリ

シーのいかなる条項も、オハイオ州改正法典第 3323 章に基づいて開発された学生の個別教育プログラム、または「1973 年リハビリテーション法」第 504 条 (29 USC 794) に基づいて開発された計画に記載されている目的で学生が携帯電話を使用することを禁止するものではありません。学生は、健康上の懸念を監視または対処するために携帯電話を使用できます。

V. 携帯電話の保管携帯電

話の使用が禁止されているときは常に、生徒は携帯電話を生徒用ロッカー、閉じたバックパック、学区が提供する保管装置などの安全な場所に保管しなければなりません。

6. 規律

生徒がこのポリシーに違反した場合、教師または管理者は、以下の段階的に厳しい懲戒処分を講じるものとします。

A. 授業の残りの時間は、生徒の携帯電話を学校の中央事務所に保管します。

B. 生徒の携帯電話を学校の中央オフィスに置いて回収してもらう
生徒の親または保護者によって作成されます。

C. 生徒の携帯電話の使用について話し合うために生徒の親または保護者との面談をスケジュールします。

学生の違反は学期ごとにリセットされます。

- 七. ワイヤレスヘッドフォン :生徒
はワイヤレスヘッドフォンの使用は許可されません。有線ヘッドフォンの使用は、学校職員の裁量により
制限されます。

これは、オハイオ州議会法案 250 条 3313.753 の最近の修正に準拠しています。

23. 学術上の不正行為

学生は、不正行為、不正アクセス、不正なコンピュータの使用、著作権侵害、盗作など、学業上の不正行為を行ってはなりません。この規定に違反した学生は、問題となった課題に対して0点の評価を受けるほか、その他の懲戒処分が科せられる場合があります。

24. 脅迫

生徒は、校舎内または脅迫時に校内活動が行われている敷地内に対して、いかなる脅迫行為も行ってはなりません。脅迫行為には、爆破脅迫や、パニックを誘発したり、精神的、身体的、感情的な危害を与える可能性のある暴力脅迫などが含まれますが、これらに限定されません。

25. 無礼な態度生徒は、他の生徒、

学校職員、学校訪問者に対して無礼な態度を取ってはなりません。

26. 懲戒処分の不履行学生は懲戒処分を履行しないことは できない。

27. ギャング活動の定

義：「ギャング」とは、違法行為の実行、ギャングの目に見える側面の誇示または伝達、あるいは規律違反行為の実行を目的とする2人以上の集団を指します。安全で暴力のない学校環境を確保するため、フィンドレー市立学校においては、ギャングおよびギャング活動は、以下のとおり禁止されています。• ギャングへの所属、提携、または提携を示唆する衣服、宝飾品、紋章、バッジ、シンボル、標識、その他の物品の着用、所持、使用、配布、展示、または販売。

- ジェスチャーや握手、ギャングのメンバーであることの表明、またはギャングとのつながりを示すことなど、言語的または非言語的なあらゆる行為に従事すること。• ギャングまたはギャングの活動の利益を増進するあらゆる行為に従事すること。これには以下が含まれますが、これらに限定されません。• 「みかじめ」の代償として誰かに金銭を要求すること、または明示的または暗示的に、その他の違法または禁止行為で誰かを脅迫すること。• 学校の敷地内または学校に持ち込んだ私物に、ギャングに関連する落書き、メッセージ、シンボル、またはサインを描いたり、書いたり、入れ墨を入れたり、その他の方法で刻み込むこと。
- 暴力、恐喝、その他の違法行為、または学校の方針に違反する行為。

- 他者に対する身体的暴力を扇動すること
人。

28. 脅迫/威嚇

他者に身体的危害を受ける可能性があると思わせること（脅迫）。生徒は、生徒、教師、その他の学校職員、または訪問者に対して、身体的暴力で脅迫したり、いかなる手段によっても強制したりしてはなりません。生徒は、他の生徒または人物に対し、生徒、教師、その他の学校職員、または訪問者に対して、身体的暴力で脅迫したり、いかなる手段によっても強制したりするよう促してはなりません。脅迫には、他の生徒または人物から金銭またはその他の貴重品をゆすり取るための脅迫が含まれますが、これに限定されません（20項参照）。

29. デートDVまたはセクスティング

生徒は、生徒または他の人物とのデートDVやセクスティングに関与してはなりません。デートDVまたは関係性虐待とは、交際相手を支配するために、身体的、性的、言語的、または感情的な虐待を用いたり脅迫したりする行為を指します。セクスティングとは、電子データ転送またはその他の方法によるヌード、わいせつ、ポルノ、卑猥な画像、またはその他の違法な写真画像を所持、撮影、配布、譲渡、または共有することと定義され、州法および/または連邦法の下で犯罪を構成する可能性があり、適切な法執行機関に通報される場合があります。学校の敷地内、スクールバス、学校主催のイベント、または学校の学習環境を妨げるデートDVまたはセクスティングは禁止されています。

30. 虚偽の報告学生

は、学校職員による調査や懲戒処分につながるような虚偽の陳述、虚偽の告発、または虚偽の情報提供を行ってはなりません。また、法執行機関の介入につながる可能性のある、あるいは実際にそうなる可能性のある虚偽の報告や虚偽の申し立てを行ってはなりません。

学生への薬の投与

学校での経口薬

例外的な状況下で、子供が学校時間中に経口薬（処方薬と市販薬の両方）を服用する必要があり、親/保護者が学校にいて薬を投与できない場合は、看護師または校長の指名者のみが以下の規則に従って薬を投与します。1. 親/保護者と医師の署名入りの書面による指示が必要であり、

次の情報

を含めます: a. お子様の名前、住所、通っている学校、学年。b. 薬剤名。c. 薬剤の目的。d. 投与時間。e. 投与量。f. 起こりうる重篤な副作用。

g. 投与を開始する日、h. 投与を終了する日、そして
i. 無菌状態および保管を含む、薬剤の投与に関する特
別な指示。

2. 看護師または校長の指定者は、次の措置を講じます。
a. 適切な学校職員に薬について知らせる。
b. 薬の投与を記録しておく。
c. 薬を鍵のかかるキャビネットに保管する。
d. 使用しなかった薬を親または保護者にのみ返却する。

3. お子様の保護者は、以下の事項について学校に報告する責任を負います。

お子様の健康状態の変化、または投薬の変更。

4. 学区は、医薬品の投与の要請を拒否する裁量権を保持します。

5. この規則のコピーは、保護者の要請に応じて提供されます。

学校での医薬品の投与。

出席

手順

オハイオ州法では、正当な理由がない限り、生徒は毎日時間通りに登校することが求められています。保護者は、生徒が欠席する場合は、学校に欠席理由を通知することが法律で義務付けられています。学区では、保護者に対し、欠席当日の午前10時までに、出席ホットライン、出席管理アプリ、または学校事務室へのメール／電話で欠席を報告するよう義務付けています。欠席当日の朝に家庭と学校の間で連絡が取れなかった場合、保護者は生徒に欠席理由を説明したメモを学校に戻った直後に渡す必要があります。連絡が取れない場合、欠席は正当な理由のない欠席として記録されます。

長期欠席の場合、保護者の方は医師の指示を学校に必ずお知らせください。欠席理由を説明した医師の診断書は、医師の指示があった日から3日以内に書面で学校に提出してください。すべての専門機関による診断書は、署名入りの原本を提出してください。コピーやスタンプが押されたコピーは受け付けられません。

幼稚園から5年生までの1日の授業時間は6.08時間とみなされます。

学校は、保護者または後見人もしくは指定の方に欠席のご連絡を差し上げるよう努めます。保護者の方は、州法を遵守するため、自宅の電話番号、勤務先の電話番号、メールアドレス、または指定の方に学校にご連絡いただくことができます。

遅刻 生徒が遅

刻または早退する場合は、保護者の方が出席管理事務所で出欠の記録を記入してください。度を越した遅刻は、懲戒処分の対象となる場合があります。出席時間としてカウントされます。生徒が遅刻または早退する場合は、

遅刻・早退の場合は、生徒の出席簿に記録されます。遅刻・早退の理由を記載した書類を、欠席後2日以内に提出してください。

正当な理由のない欠席および無断欠席の手続き

1. 学校は、児童と保護者に書面で法的通知を送付するものとする。
子どもが正当な理由なく15時間以上欠席した場合は、保護者に無断欠席の責任を通知し、子どもを直ちに学校に通わせる責任があることを通知する（ORC Sec. 3321.19）。
2. 学校は、保護者の出席を必要とする正当な理由のない欠席が21時間以上ある児童、および5年生から12年生までの児童に対し、保護者教育プログラムへの参加を通知するものとする。この教育プログラムの目的は、児童の学校出席を促すために保護者の関与を促すことである（ORC Sec. 3321.19）。
3. 学校は、正当な理由なく25時間以上欠席した児童とその保護者に対し、書面で、不登校の法的結果を通知することができます。
4. 児童が正当な理由なく連続30時間以上、1学期42時間以上、または1学年72時間以上欠席した場合、当該児童は常習的不登校とみなされます。児童が常習的不登校とみなされた場合、学区は不登校介入計画（ORC Sec. 3321.19およびSec. 3321.191）を実施し、裁判前協議を要請することができます。

ハンコック郡少年裁判所に、不登校および不正行為に関する苦情（ORC Sec. 3321.191 および Sec. 2151.27）を提出します。

過度の無断欠席または正当な理由による欠席の手続き

生徒が1学期に38時間以上、または1学年度に65時間以上、正当な理由の有無にかかわらず欠席した場合、出席管理官は保護者に書面で通知するものとします（ORC Sec. 3321.191）。この基準を満たした場合、生徒は出席監視の対象となります（葬儀、大学訪問、OSSなどを除く）。

出席監視プログラムは、生徒の出席状況を綿密に監視し、欠席を最小限に抑え、生徒本人とその家族に支援を提供します。生徒は、欠席後2日以内に、氏名、欠席理由、欠席する日時を明記した、医療従事者、カウンセリング担当者、またはその他の公的機関（保護者の記録は除く）による欠席理由書を学校に提出する必要があります。病気の生徒は、看護師が欠席を認める場合もあります。

生徒は、前年度の授業出席記録に基づき、学年度開始時に出席監視の対象となります。また、当該学年度中に、正当な理由の有無にかかわらず、1か月間に38時間以上、または1学年中に65時間以上欠席した場合にも、出席監視の対象となります。校長／副校長、出席管理担当マネージャー、またはカウンセラーは、生徒と保護者と面談し、出席状況を改善するための計画を立てます。転校生の出席状況は、出席監視の対象となった生徒と同じ基準で審査されます。

理事会は、学区の出席管理責任者と協力して、過度に欠席している生徒に対しても積極的に追及していきます。

宗教表現の日

幼稚園から12年生までの生徒は、信仰や宗教的または精神的な信念体系を理由に休暇を取ったり、宗教宗派、教会、または団体の後援の下で行われる活動に参加したりするために、学年ごとに最大3日間の宗教的表現日を免除されます。

その他の宗教的または精神的な団体。本方針および州法のすべての要件に従い、このような理由で欠席した生徒には、学業上の罰則は課されません。承認された宗教的表現の日に生徒が欠席した時間数は、オハイオ州改正法典3321.191(C)(1)に基づく保護者への通知の目的における欠席時間の計算には考慮されません。

宗教的表現の日を欠席した場合、生徒には、以下の手順に従って、試験やその他の学業上の要件に関して代替の配慮が提供されます。

- 1.保護者は、代替宿泊施設を希望する特定の日付を、学年開始後 14 日以内、または学年開始後に学区に転校または入学する場合には入学日から 14 日以内に、最大 3 日付で書面で学校長に通知する必要があります。
- 2.校長は、生徒の宗教的または精神的信念体系の真摯さを問うことなく、申請を承認します。校長は、申請書に署名のある保護者に連絡を取り、申請内容を確認する場合があります。保護者が署名に異議を唱える場合、申請は却下されることがあります。
- 3.承認された欠席が矛盾を生じる場合、校長は適切な教室の教師は、当初予定されていた日時の前または後に代替試験やその他の学業上の要件の日時をスケジュールできます。

生徒は、承認された宗教的表現日のために欠席した日に、学校間活動またはその他の課外活動に参加することが許可されます。

以下は、オハイオ州教育労働省がまとめた主要な宗教的祝日の一覧です（ただし、一部を網羅したものではありません）。この一覧は網羅的なものではなく、学生の信仰、宗教的、または精神的信念体系における祝日や祝祭日が一覧に記載されていない場合、学生の配慮を求める申請を拒否するものではありません。

ロシュ・ハシャナ	イード・アル=フィトル
ヨム・キプール	ペサハ（過越祭）
ディワリ	聖金曜日
ハヌカ	イースター
ラマダン	イード・アル=アドハー
灰の水曜日	

自転車／スクーター 自転車／スク

ーターに乗る生徒は、歩行者の権利を尊重しなければなりません。自転車で通学する生徒は、学校敷地内に到着したら自転車を降り、駐輪場まで歩くか押して移動してください。自転車／スクーターは校内では使用しないでください。すべての自転車／スクーターは、設置された駐輪場に駐輪してください。鍵をかけることをお勧めします。学校は自転車／スクーターの安全について責任を負いません。

自転車／スクーター。これらの安全手順に従わない生徒は、自転車／スクーターで通学する権利を失います。

誕生日

生徒は、原材料名が記載された包装済みのおやつを持ち込むことができます。食物アレルギーや食事制限と診断される生徒が増えていきます。お子様の担任の先生にご相談ください。

風船、花、ぬいぐるみ、誕生日パーティーの招待状などは、授業時間中に生徒に届けられません。誕生日の招待状については、クラス名簿を請求していただければ、ご家族から郵送いたします。

バス政策

バスで送迎できるのは、乗車資格のある生徒のみです。徒歩で通学する生徒は、バスで通学する生徒と一緒にバスに乗車することはできません。保護者の方から他の送迎を希望する旨の通知がない限り、バスで通学する生徒はバスで下校します。

生徒が指定されたバスのルート沿いにある別のバス停で乗降する場合は、保護者からの連絡を校長に提出し、許可を得てください。乗車時に許可書を運転手に提示してください。いかなる状況においても、生徒は書面による許可なしにバスの割り当てを変更したり（割り当てられたバス以外のバスに乗車したり）、バス停の変更をすることはできません。保護者は、学校事務室で用意されている用紙に記入することで、バスまたはバス停の変更を申請できます。

バスのルール

以下の規則は、学区が管理する交通機関における生徒の行動に関するもので、生徒、運転手、および道路上の他の運転手の安全と福祉を確保し、学校車両の安全と適切なメンテナンスを確保することを目的としています。

生徒は以下のことを行います。

1. バス停に近づくときは注意し、対向車に向かって左側を歩き、高速道路を横断する前に両方向の道路が空いていることを確認し、交通量の多い場所で待機してください。
2. バスが時刻表通りに運行できるように、バスの到着予定時刻より前にバス停に到着する。
3. 交通の無い場所で待機し、バス停では次のような行動は控えてください。
個人の生命、身体または財産を脅かすもの
4. 指定された座席に座る（運転手は生徒に座席を割り当てる権利を有する）。
5. 他の生徒の邪魔をしたり、混雑したりすることなく、指定された席に直接行き、車両が走行している間は着席したまま待機すること。

- 6.教室での行動規範、または管理者や輸送担当者が定めたバスでの行動規範を遵守し、運転手の指示に迅速かつ丁寧に従います。
- 7.車内を清潔に保ち、つまずく危険がないようにする。
- 8.医療上の理由で必要な場合、または適切な付き添い者、学校管理者、または学校職員の監督下で学区が通常以外の移動を許可した場合を除き、バス内での飲食を控える。
- 9.卑猥な言葉の使用や大声で話したり笑ったりするのは控えてください（不必要な混乱は運転手の注意をそらし、重大な事故につながる可能性があります）。
- 10.座席に座ったまま、通路や出口を空け、頭、腕、手を常に車内に保ち、車内や車外に物を投げたり渡したりしないでください。
- 11.他の生徒や運転手に対して礼儀正しく接する。
- 12.備品は自宅の大切な家具と同じように扱ってください（スクールバスに損傷を与えることは厳禁です）。
- 13.学生や保護者に処方薬が必要な場合を除いて、車内でのニコチン製品の使用やアルコールや薬物の所持は控えてください。
- 14.膝の上に載せられるもの、または他の方法で保管できるものだけを車内に持ち込む
州法に従って車両に搭載します。

生徒は車両が停止するまで座席に留まり、速やかに降車し、車両が発するまで指定された安全な場所で待機してください。寮側へ向かうために道路を横断しなければならない生徒は、運転手の合図を待ち、自身も交通状況を確認した上で車両の前を横断してください。

学生がこれらの規則に従わない場合は、学区が管理する交通機関を利用する権利を失う可能性があります。

バス規律

理事会は、学区長またはその他の管理者に対し、最長1学年まで生徒のバス利用を停学する権限を与えます。必要な手続きは、停学処分を生徒に通知し、停学処分が行われる前に管理者に面会する機会を与えることです。管理者の決定は最終的なものです。

個々の生徒に規律上の問題が生じた場合は、次のガイドラインに従ってください。

- 1.可能であれば、ドライバーが問題を解決する必要があります。
- 2.運転手が問題を解決できない場合は、
輸送管理者。輸送管理者と運転手は、必要に応じて校長と協議する。懲戒処分は校長が行う。

3.上記の対策で解決できない問題は、

監督。

未就学児および障害のある生徒の交通機関の利用を停止する場合は、これらの手順の変更が必要になる場合があります。適用されるすべての法定要件に準拠します。

(理事会方針JFCC-R参照)

学校の休校または遅延について最新情報を素早く入手するには、学区

および学校のメールとテキストメッセージに登録するのが簡単です。また、学区および学校のソーシャルメディアページをフォローし、学区の通信システムからアラートに登録してください。学区のウェブサイト (www.findlaycityschools.org)では、学校の遅延や休校に関する情報や、学区の通信システムへの登録が可能です。また、悪天候時でも、フィンドレーのラジオ局 (WFIN 1330 AM)で休校や遅延に関する情報を入手できます。

授業終了前に休校となった場合は、ラジオと学区の通信システムでもアナウンスされます。保護者の皆様には、事前にこれらの緊急事態への対応策を準備していただくようお願いいたします。休校アナウンス後、学校の電話回線は頻繁に混雑します。休校となった場合、その日に校舎内で予定されている活動 (例 :PTA会議、スケートパーティー、グレイVバスケットボールの練習、スカウト集会など)も自動的に中止となります。

服装規定／生徒の身だしなみ保護者の皆様に

は、生徒の学校生活が充実したものとなるよう、清潔できちんとした、適切な服装で登校させてください。お子様が授業だけでなく、体育や校庭での活動にも参加できるよう、快適な服装を心がけてください。暖かい日にはショートパンツの着用も許可されています。天候が許せば屋外で休憩時間を設けますので、天候に応じた服装を心がけてください。ジャケット、セーター、コート、ブーツ、帽子、手袋、ミトンなどの衣類には、紛失防止のため、ラベルを付けることをおすすめします。

生徒の注意をそらしたり、学習を妨げたりする服装は、校内では認められません。生徒は校舎内で帽子をかぶってはけません。薬物、アルコール、タバコの広告、または不適切な行動や不快な言葉遣いを示す服装も禁止されています。(生徒行動規範参照)

安全上の理由から、ビーチサンダルやヒールのない履物、またはヒールストラップのない履物は推奨されません。服装と身だしなみは、健康、衛生状態、および安全上の要件を考慮し、清潔であることが求められます。(JFCA理事会方針参照)

正当な手続きと控訴 (停学、退学、退学)

学校外での停学、退学、緊急退学の手続きは、オハイオ州改正法典第3313.66条およびJGD、JGDA、JGE、JGF、JGF-R、JEGAを含むすべての関連委員会の方針に従って行われます。学校内での代替措置については、いかなる正当な手続きも保証されません。

停学期間は、停学が科された日から1暦年を超えて延長することはできません。停学処分を受けた生徒は、学校または課外活動に参加することはできません。授業の課題は、担当校長の裁量により、単位または部分単位として補講される場合があります。停学および退学は、正当な理由のない欠席とみなされます。学区は、州法に基づき、幼稚園から小学3年生までの生徒に対し、州法で定義される重大ではない違反行為を理由として停学処分を科すことはありません。

特定の課外活動からの生徒の停学処分に関しては、改正法典第3313.664条に規定されている以上の正当な手続きによる保証は暗黙的に規定されていません。学区長は、本方針または当該活動に適用されるその他の正当に公布された規則に違反した場合、懲戒処分とは別に、または懲戒処分に代えて、生徒の特定の課外活動またはすべての課外活動への参加を禁止することができます。同様に、体育主任、担当コーチ、または担当ディレクターは、本方針または当該活動に適用されるその他の正当に公布された規則に違反した場合、懲戒処分とは別に、または懲戒処分に代えて、当該者の責任範囲に含まれる特定の課外活動またはすべての課外活動への参加を生徒に禁止することができます。このような停学期間は、停学処分が科された時点から1暦年を超えて延長することはできません。校外停学処分が科された場合、生徒は学校または課外活動に参加することはできません。また、担当校長の裁量により、授業の課題は単位または部分単位として補講することができます。

緊急医療フォーム

新学期の初めに、保護者の皆様にはFinal Formsを通じて緊急医療フォームへの記入をお願いいたします。この情報は緊急時に必要となります。このフォームは毎年記入し、状況の変化に応じて更新してください。新学期の初めに緊急医療フォームへの記入がない場合、生徒は校外学習に参加できません。

料金

授業料は各学期の初め（8月/1月）に支払う必要がありますが、1年分まとめて支払うこともできます。授業料のお支払いは、学校事務室までご連絡ください。小切手はFindlay City Schools宛てをお願いいたします。授業料と学校給食費を同じ小切手でお支払いにならないようお願いいたします。授業料はFindlay City Schoolsを通じてオンラインでもお支払いいただけます。

校外学習 学年を

通して、[クラス](#)は校舎外への遠足を様々な時期に計画します。最終フォームに記入する際、フォームのボックスにチェックを入れることで、お子様が学年中に予定されている学校主催の校外学習に参加することを許可したことになります。お子様がこのような活動に参加するには、保護者の許可が必要です。各校外学習の前に情報をお送りしますのでご了承ください。その際、お子様の校外学習への参加を希望されない場合は、校外学習日の前までに担任の先生に書面で通知し、お子様が参加できないことをご知らせください。各校外学習の許可フォームは個別に用意されていますので、ご注意ください。

校外学習は帰宅させられない場合があります。安全な体験を保証するためにあらゆる注意が払われることを理解しており、不測の事故が発生した場合、学校は一切の責任を負いません。

いじめ、デートDV、いじめいじめとは、生徒や他の組織への入会

に際し、誰かに精神的または身体的危害を与える、または与える重大なリスクをもたらす行為を行うこと、または被害者を含む他者にそのような行為を強要することを意味します。

このポリシー全体を通じて、「嫌がらせ」、「脅迫」、「いじめ」の代わりに「いじめ」という用語が使用されています。

いじめ、嫌がらせ、脅迫とは、生徒が他の生徒に対して複数回、書面、口頭、電子的、または身体的な意図的な行為を指します。意図的な行為には、交際関係における暴力も含まれます。これらの行為は、他の生徒に精神的または身体的危害を与え、かつ、他の生徒にとって威圧的、脅迫的、または虐待的な教育環境を生み出すほど深刻、持続的、または蔓延している場合に該当します。これらの行為は、学校の敷地内、スクールバス内、または学校主催の活動においては禁止されています。電子的行為による嫌がらせ、脅迫、またはいじめの加害者であると認定された生徒は、停学処分を受ける場合があります。懲戒手続きは、アメリカ合衆国憲法修正第一条に基づく生徒の権利を侵害するものではありません。行為がセクシャルハラスメントである場合、タイトルIXの手続きを経ずには課せない懲戒処分を課す前に、該当する場合はタイトルIXのセクシャルハラスメント苦情処理手続きに従います。

いじめ、いじめ、デートDVの被害に遭った個人による許可、同意、またはリスクの引き受けは、このポリシーに含まれる禁止事項を軽減するものではありません。

学区では、健康カリキュラムの中に、7年生から12年生を対象とした年齢に応じたデート暴力防止教育の指導を組み込んでいます。この指導には、デート暴力の警告サインや健全な関係の特徴を認識することが含まれます。

コンピューターや電子通信機器、電子的手段を用いた活動を含む、あらゆる種類の禁止行為は教育プロセスに反し、常に禁止されています。学区は、ソーシャルネットワーキングサイトやチャットルームでの他者との交流、ネットいじめへの意識と対応など、未成年者に対し適切なオンライン行動について教育を行っています。

学区の管理者、教師、その他の職員は、いじめや嫌がらせ行為を奨励、許可、容認、または容認してはなりません。生徒会の指導者を含む生徒は、いじめや嫌がらせ行為を計画、奨励、または関与してはなりません。

管理者、教師、およびその他すべての学区職員は、いじめ、デートDV（交際相手への暴力）を含む可能性のある状況、状況、または出来事に特に注意を払います。禁止行為が計画または発覚した場合、関係する生徒は、発見した学区職員から本方針に含まれる禁止事項を通知され、直ちにすべての行為を中止する必要があります。いじめ、いじめ、デートDVに関するすべての事件は、直ちに校長または指定職員に報告され、適切な懲戒処分が下されます。当該行為がセクシャルハラスメントであることを職員が実際に認識した場合は、タイトルIXコーディネーターに連絡しなければなりません。

教育長/指定者は、法律で許可されている範囲で、報告されたすべての事件の書面による要約を半年ごとに理事会会長に提出し、その要約を学区のウェブサイトに掲載する必要があります。

学区当局は、生徒と直接接する学区職員およびボランティアに対し、学区のいじめおよびいじめに関する方針に関する研修を実施し、毎年11月30日までに、統合学校義務報告書を通じて、この要件の遵守状況をオハイオ州教育省に報告します。

学区が不遵守を報告した場合、学区長または指定者は、30日以内に、その不遵守の理由と、問題に正確かつ効率的に対処するための行動計画を文書で説明した文書を教育委員会に提出しなければなりません。

小学校の従業員には、暴力や薬物乱用の防止、青少年の健全な育成に関する追加研修が提供されます。

学区の職員、生徒、ボランティアは、いじめやハラスメント行為の報告に起因する損害について、民事上の免責特権を有します。この規定を遵守しない管理職、教師、その他の職員および生徒は、懲戒処分の対象となる可能性があり、州法および連邦法に基づき民事および刑事罰の対象となる場合があります。

従業員または学生が、個人に対するいじめや嫌がらせの容疑に関して苦情を申し立てたり、調査、手続き、または聴聞会に協力したり参加したりしたことを理由に、その従業員または学生に対して報復することは許可されません。

(JFCF理事会方針参照)

いじめ、デートDV、ハラスメント、脅迫、またはいじめの禁止は、生徒ハンドブック、および学区内の学校と生徒の行動規範を定める出版物に掲載されています。さらに、この方針に関する情報は、職員ハンドブックおよび研修資料にも組み込まれています。行為がセクハラの場合は、該当する場合、タイトルIXセクハラ苦情処理手続きに従います。行為がセクハラである場合、該当する場合、タイトルIX手続きによる解決なしには課せない懲戒処分を課す前に、タイトルIXセクハラ苦情処理手続きに従います。

学校職員の責任と苦情処理手順

学区内のいかなる生徒・学校職員によるいじめ、加害行為および／またはデートDVも固く禁じられており、こうした行為は停学および／または退学を含む懲戒処分の対象となる場合があります。いじめ、加害行為および／またはデートDVとは、生徒または生徒グループが他の生徒・学校職員に対し、いじめ、嫌がらせ、威嚇、傷害、脅迫、嘲笑または屈辱を与える目的で、公然とまたは隠蔽されて電子的に送信される行為を含む、意図的な書面、口頭、図式または身体的な行為を指します。こうした行為は、学校の敷地内またはそのすぐ近く、学校主催の活動、学区の出版物、学区が所有または運営する通信ツール（学区の電子メールアカウントおよび／またはコンピューターを含むがこれらに限定されない）の使用、学校が提供する交通機関、または公式のスクールバス停では禁止されています。

いじめ、いじめ、デートDVには様々な行為が含まれます。禁止行為に該当する可能性のある行為の例としては、

1. 身体的暴力および／または攻撃、

2. 言葉や身振りによる脅迫、嘲り、威嚇。

3. 金銭および/または財産の強奪、損害または盗難。

4. 仲間から排除されたり、噂を広めたりすること。

5. 他者に危害を加える意図を持って、反復的かつ敵対的な行動をとること

情報通信技術やその他の Web ベース/オンライン サイトを利用した次のような行為（「ネットいじめ」とも呼ばれます）：

A. ウェブサイト、ソーシャルネットワーキングサイト、ブログ、または個人のオンラインアカウントに中傷的な投稿をする
ジャーナル;

B. 虐待的または脅迫的な電子メール、ウェブサイトの投稿またはコメントを送信すること、
インスタントメッセージ

C. カメラ付き携帯電話を使用して生徒の恥ずかしい写真やビデオを撮影し、その写真やビデオをオンラインで
配布または投稿すること。

D. ウェブサイト、ソーシャルネットワーキングサイト、ブログ、個人のオンラインジャーナル、電子メール、インスタ
ントメッセージを使用して、他の学生にゴシップや噂を広めること。

6. インターネット サービス プロバイダーに不適切な発言をしたとして虚偽の報告をし、オンライン グループから
他のユーザーを排除する。

行為がいじめまたは嫌がらせに該当するかどうかを評価する際には、選択された言葉やとられた行動、そのような行為が
他の人の前で行われたか他の人に伝えられたか、加害者が被害者とともに関わり合ったか、動機（認められたか適切
に推測されたか）に特に注意が払われます。

教師およびその他の学校職員

上記で定義されるようないじめ、いじめ、デートDV行為を目撃した教師やその他の学校職員は、目撃した出来事を校長または
指定担当者に速やかに通知し、目撃した出来事に関する書面による事件報告書を速やかに提出しなければなりません。

生徒または保護者からいじめ、いじめ、デートDVの疑いがあるとの報告を受けた教師やその他の学校職員は、速やかに校
長または指定担当者にその報告を通知します。

正式な書面による苦情の場合は、翌授業日までに校長または校長代理に提出してください。生徒からの非公式な
苦情を教師または他の専門職員が受け取った場合は、その職員が書面による報告書を作成し、翌授業日までに校長または校長
代理に提出してください。

苦情

正式な苦情

生徒および/または保護者は、いじめ、ハラスメント、脅迫、いじめ、デートDVの疑いがある場合、報告することができ
ます。報告は書面で提出してください。書面による報告には、関係者、疑わしい行為の回数と場所、ハラスメント、脅迫、いじめの
対象、目撃者となる可能性のある生徒または職員の氏名など、合理的に具体的な内容を含める必要があります。報告は、学校の
職員または管理者に提出できます。提出された報告は速やかに校舎に送付されます。

レビューと対応の責任者/指定者。

非公式の苦情

生徒、保護者、後見人、学校職員は、教師、学校管理者、またはその他の学校職員に対し、嫌がらせ、脅迫、いじめと思われる行為について、口頭で非公式に苦情を申し立てることができます。このような非公式の苦情は、いじめ、嫌がらせ、脅迫、いじめの疑いのある行為について、関係者、疑わしい行為の回数と場所、禁止行為の対象、目撃者である可能性のある生徒または職員の氏名など、合理的に具体的に記述する必要があります。非公式の苦情を受け取った学校職員または管理者は、上記の情報を含め、速やかに苦情を文書で記録します。学校職員または管理者によるこの書面による報告は、速やかに校長または指定担当者へ送付され、検討と対応が行われます。

匿名の苦情

上記の通り非公式な苦情を申し立てた学生は、苦情を受理した学校職員および管理者に対し、氏名の秘密保持を要請することができます。匿名の苦情は審査され、(1)苦情の出所が明らかにならず、かつ(2)いじめ、いじめ、および/またはデートDV行為を行ったとされる学生の適正手続き上の権利に合致する範囲で、状況に対処するための合理的な措置が講じられます。

虚偽の苦情

学生は、嫌がらせ、脅迫、いじめについて故意に虚偽の申告をすることは禁止されています。嫌がらせ、脅迫、いじめについて故意に虚偽の申告をした学生は、あらゆる懲戒処分の対象となる場合があります。

介入戦略

教師およびその他の学校職員

学校関係者は、非公式および公式の苦情の両方に対処することに加えて、生徒と他の関わりの中で、いじめ、いじめ、および/またはデートDVの問題に対処することが推奨されます。

学校関係者は、クラスでのディスカッション、カウンセリング、社会的に適切な行動の強化などを通じて、生徒にハラスメント、いじめ、脅迫、およびいじめについて教育する機会を設け、これらの禁止行為の根絶を支援することができます。たとえハラスメント、いじめ、脅迫、またはいじめの正式な定義を満たさない場合であっても、他の生徒または学校関係者を嘲笑、屈辱、または脅迫する目的または効果を持つ生徒の行為を目撃した場合は、学校関係者は速やかに介入する必要があります。

管理者の責任

調査

校長または指定担当者は、嫌がらせ、いじめ、脅迫、またはいじめの疑いに関する公式または非公式の苦情について通知されます。校長または指定担当者の指示の下、すべてのそのような苦情は、

苦情は速やかに調査されます。調査が完了すると、書面による調査報告書が作成されます。報告書には、事実認定、いじめ、いじめ、デートDV行為の有無の判断、禁止行為が確認された場合の懲戒処分を含む介入勧告が含まれます。必要に応じて、目撃者の証言書が報告書に添付されます。

上記にかかわらず、非公式な苦情を申し立てた学生が匿名を希望した場合、当該苦情の調査は、苦情の匿名性に鑑みて適切な範囲で制限されます。調査の制限には、苦情の簡易な検討（加害者と協議の有無を問わず）に限定されることが含まれますが、その場合、更なる情報の受領、および／または苦情を申し立てた学生が匿名での報告という条件を撤回することを条件とします。

いじめや嫌がらせが人種、肌の色、国籍、性別、または障害に基づいており、その行為が敵対的な環境を作り出す場合、該当する場合は、適用される差別禁止苦情処理手順が実施されます。

非懲戒介入

立証されたいじめ、いじめ、および／またはデートDV行為が早期に特定された場合、および／または立証されたそのような行為が懲戒処分を当然必要としない場合、生徒は、行為の定義、その禁止事項、および嫌がらせ、いじめ、威嚇、および／またはいじめと見なされる可能性のある行為を避ける義務について指導を受けることがあります。

学生間または学生グループ間の対立から苦情が生じた場合、ピア・メディエーション（仲裁）が検討される可能性があります。ただし、一部のケースをピア・メディエーションに付託する際には、特別な配慮が必要です。力関係の不均衡により、被害者にとって手続きが威圧的なものとなり、不適切なものとなる可能性があります。

被害者のコミュニケーション能力や自己主張能力は低い場合があり、過去の脅迫や将来の脅迫への恐怖によってさらに低下する可能性があります。このような場合、被害者には追加的な支援を提供する必要があります。あるいは、ピア・メディエーション（仲間同士の仲裁）は、問題解決には不適切と判断される可能性があります。

懲戒介入

嫌がらせ、脅迫、いじめ行為が確認され、懲戒処分が必要とされる場合、生徒はあらゆる懲戒処分の対象となります。懲戒手続きは、アメリカ合衆国憲法修正第一条に基づく生徒の権利を侵害するものではありません。

ただし、他の方法で検証されない匿名の苦情は、懲戒処分の根拠にはなりません。

校内および校外の停学処分は、被疑者に停学処分の理由を通知し、状況を説明する機会を与えた後にのみ課せられる。

除名処分は、理事会、理事会の委員会、または理事会の諮問委員会での聴聞会の後にのみ課される。

理事会の方針に基づき、理事会が指名する公平な聴聞官による聴聞。この措置は、深刻な嫌がらせ、脅迫、いじめがあった場合、または過去の介入によって禁止行為が排除されなかった場合にのみ適用されます。

犯罪行為の疑いがある場合は法執行機関に報告され、児童虐待の疑いがある場合は規定の期限に従って児童保護サービスに報告されます。

加害者の親権者または保護者に報告する

調査の結果、特定の生徒による嫌がらせ、脅迫、いじめ行為が確認された場合、校長または指定校は、加害者の親権者または保護者に書面でその旨を通知します。当該生徒に対して懲戒処分が科される場合は、その内容も通知に記載されます。

新たな、または追加の嫌がらせ、脅迫、いじめから、また事件の報告後の報復から生徒を保護するための戦略が策定され、実施されます。

被害者とその親または保護者への報告

調査の結果、特定の生徒に対するいじめまたはいじめ行為が確認された場合、校長または指定校は、被害者の保護者にその旨を通知します。通知を行う際には、加害者の法的プライバシー権を尊重するよう配慮する必要があります。

いじめに関する事項は、告発者と被疑者の身元を含め、可能な限り秘密に保たれます。有罪判決を受けた被疑者には懲戒処分が科せられる場合がありますが、報復行為は禁止されています。

学校管理者は、嫌がらせ、脅迫、いじめ、デートDV行為を行った生徒の保護者と、そのような行為を受けた生徒の保護者の両方に通知し、法律で許可されている範囲で、事件に関する書面による報告書へのアクセスを許可するものとします。

警察と児童保護サービス

苦情申立人は、本ポリシーに基づく苦情申立に加えて、または本ポリシーに基づく苦情申立の代わりに、外部機関への苦情申立や民事訴訟の提起など、他の選択肢を選択することができます。ただし、これらに限定されるものではありません。苦情申立人が適用される州法またはコモンローの他の条項に基づいて救済を求めることを禁じるものではありません。

学区は、法執行機関や公立児童福祉サービス機関が調査を行っている場合でも、学区の方針または規則に違反があったかどうかを判断するために、いじめ、いじめ、および／またはデートDVの事件を調査しなければなりません。学区職員は全員、外部機関による調査に協力しなければなりません。

(理事会方針JFCF-R参照)

アタマジラミ

生きたシラミが見つかった生徒は、承認されたシラミ駆除治療が完了するまで自宅待機となります。生徒は翌登校日に保護者同伴で登校し、看護師または校長指定の者による再検査を受けてください。生きたシラミが見つからず、卵の除去に顕著な改善が見られた場合は、生徒は登校を許可されます。

宿題

宿題は、生徒の学習スキルを伸ばすための練習の機会として設けられています。保護者の方は宿題の手伝いをしていただくことはできますが、学習効果を最大限に高めるためには、生徒が自ら宿題を作成し、完了させる必要があります。

必要に応じて、生徒が学校に戻った際に補習授業を行う場合があります。課題の提出期限は担任からお知らせいたします。補習課題の提出と返却は、保護者と生徒の責任となります。

営業時間

生徒は各校舎に指定された到着時間より前に学校に到着してはいけません。

学校職員は、上記の時間より前にお子様の監督を行うことはできません。保護者の皆様には、この件についてご協力をお願いいたします。指定された下校時間にお子様時間が時間通りに学校から迎えに来られない場合、地元の警察に通報されることがあります。

個人物品の識別

コート、ジャケット、セーター、帽子、手袋、体育館履き、本、弁当箱などには必ず名前を書いてください。落とし物は遺失物取扱所にお持ちください。身元が確認できれば生徒に返却いたします。各校舎に遺失物取扱所を設けています。

予防接種

公立学校の生徒は全員、法律により予防接種を受けることが義務付けられており、おたふく風邪、ポリオ、風疹、ジフテリア、百日咳、破傷風、および定められているその他の必須予防接種（ORC 3313.671）の予防接種を受けているか、または学校に対して異議申し立てまたは医師が医学的に予防接種が禁忌であることを書面で証明する声明書を提出する必要があります。

州教育委員会のガイドラインに従い、授業開始から 14 日経過後も必要な予防接種を受けていない、またはオハイオ州改正法第 3313.671 条に違反している生徒の登校を禁止します。

ランチタイム

フィンドレー市立学校給食サービスでは、毎日子どもたちに学校給食を提供しています。小切手はフィンドレー市立学校宛てにお願いいたします。無料／割引価格の給食の申込用紙は、学校のウェブサイトおよび電子決済ポータルで入手できます。子どもたちは学校に昼食を持参し、給食を購入した保護者と一緒にカフェテリアで食べることができます。昼食時間は学校監視員が監督します。学校職員は生徒に金銭を貸し付けることはできません。昼食の価格は、給食メニューをご覧ください。

禁煙ポリシー教育委員会のポリシー

ーにより、建物、車両、屋外観覧席、その他の学校敷地内での喫煙および電子タバコやパイプを含むあらゆるタバコ製品の使用は常時禁止されています。

看護師

看護師は授業時間の大半を勤務しています。看護師は、フィンドレー市立学校の保健方針の実施を支援しています。また、生徒一人ひとりの健康記録も作成しています。

写真リリース

時々、写真家、地元の新聞社、学校関係者によって生徒の写真が撮影され、学校のプレスリリース、学校出版物、学校のソーシャルメディア サイトで使用されることがあります。

学生向けプログラムやその他の特別イベントでは、ビデオ撮影が行われる場合があります。保護者の方は、最終フォームを通じて、お子様の写真と氏名を写真の公開に使用することに同意しないことを選択できます。

進捗レポート進捗レポートは各

学年終了時に発行されます。最終の進捗レポートは、最終日に生徒の皆様にご自宅にお送りします。保護者の皆様から進捗レポートに関するご質問やご不明な点がございましたら、担当の先生までご連絡ください。必要に応じて面談を行う場合がございます。

休み時間／校庭休み時間は、生徒が

仲間と交流する時間です。校庭は、保護者を含め、学校の授業時間中は閉鎖されます。運動は大切ですが、様々な理由により、お子様が休み時間を欠席しなければならない場合があります。その場合は、学校職員の判断によります。

授業が終わったら、生徒は直ちに校舎および校庭から退出するよう指示されます。

子どもも大人も、建物、敷地、そして他者の権利を尊重しなければなりません。放課後、校庭では学校職員による子どもの監督は行われません。

屋外休憩所

運動と遊びは、成長期のお子様の発達にとって非常に重要です。医師の許可がない限り、お子様は全員屋外での休憩に参加します。通常、屋外での休憩は気温（風速15度）以上の場合に実施されます。最終的な判断は校長の裁量に委ねられます。お子様には、あらゆる天候に対応できる適切な服装をさせてください。寒い時期には、ブーツ、マフラー、帽子、ミトンまたは手袋が必需品です。お子様は可能な限り屋外で過ごします。

記録幼稚園から

小学5年生までの各生徒の累積記録（永久記録と呼ばれることもあります）は、学校事務室で電子的に保管されます。生徒の学業成績、健康記録、テストの点数、出席状況などの情報は、累積記録の一部です。連邦権利およびプライバシー法では、これらの記録に含まれる資料は機密情報であると定められています。この情報は、保護者の書面による許可、または生徒が18歳以上の場合は生徒の書面による許可がある場合のみ開示できます。この法律ではまた、保護者が希望する場合、これらの記録を閲覧する権利が付与されなければならないとも定められています。資格のある担当者が、保護者が記録を解釈できるようサポートします。

安全に関するお知らせ保護者の

皆様には、お子様の登下校時に安全で規則的な通学経路を確保していただくようお願いいたします。歩道を歩き、横断歩道でのみ道路を渡るように徹底してください。お子様には、一人で歩くのではなく、友達と一緒に歩くように促してください。放課後にお子様を迎えに行く場合は、私道をふさいだり、学校前の路上に駐車したりしないでください。また、バス専用駐車場（黄色のペイントまたは道路標識）を必ず守ってください。生徒と教職員の安全のため、指定された送迎手順を必ず遵守してください。

すべての学校では、法律で義務付けられている火災、竜巻、安全に関する訓練を実施します。

生徒へのスナックの販売：2010年制定の「健康で

飢餓のない子どもたちのための法律」は、USDA（米国農務省）に対し、学校内で生徒に販売されるすべての食品と飲料（学校の募金活動で販売される食品を含む）の栄養基準を定めるよう指示しました。この新しい「学校におけるスマートスナック」栄養基準は、全粒穀物、果物、野菜、低脂肪タンパク質、低脂肪乳製品など、推奨すべき食品と飲料をより多く生徒に提供し、糖分、脂肪分、塩分を過剰に含む食品を制限することで、学校が健康的な選択を容易に行えるよう支援します。

スマートスナック基準の適用範囲

スマートスナックの基準は、授業時間中、つまり授業終了前日の深夜から授業終了30分後までに適用されます。このようなログラムが

学校の授業時間中に学校で運営される場合、または放課後のスナックや食事が授業終了後 30 分以内に提供される場合、その時点で生徒に販売できるその他の食品は、スマート スナックの要件に準拠する必要があります。

学校カウンセリング

小学校および中学校の全校舎には、カウンセラーまたは生徒・家族アドボケートが常駐しています。カウンセラーは、少人数グループや教室で生徒と関わり、良好な社会交流、良好な学習習慣、健全な姿勢などを育みます。生徒、保護者、教師からのご要望に応じて、個別カウンセリングもご利用いただけます。保護者面談は、お子様の学校のカウンセラーオフィスにお電話いただければ、ご相談に応じます。

学生名簿公開

学区は、生徒の教育記録に含まれる以下の個人情報を「ディレクトリ情報」として指定しています。

1. 学生の氏名
2. 公認の活動やスポーツへの参加
3. 学生の功績による賞や栄誉
4. 卒業年月日

上記の情報は、営利目的の計画または活動の要請の場合、または保護者/資格のある学生が各学年の10月1日までに学校に対し、事前の書面による同意なしに当該情報の一部または全部を学校が公開しないよう書面で通知した場合、または開示が法律で禁止されている場合を除き、事前の書面による同意なしに開示されます。

親/保護者は、最終フォームを通じて、写真のリリースで子供の写真と名前を使用することに同意しないことを選択できます。

援助を求める学生

教師、管理者、カウンセラー、その他の学校職員は、何らかの不安を抱える生徒を支援するためにここにいます。学校について何か不安なことがあれば、教師または他の職員にご相談ください。

テクノロジーと1:1デバイス

使用する生徒に関するルールと期待事項については、フィンドレー市立学校の生徒と保護者向けの1:1デバイスハンドブックを参照してください。また、教育委員会のポリシーEDEとEDE-Rもご確認ください。

フィンドレー市学区のコンピュータ ネットワークにおける生徒の許容される使用法とインターネットの安全性。

生徒による電話の使用

学校事務室の電話は、授業時間中は公務のためにのみ使用されており、個人的な通話にはご利用いただけません。緊急の連絡は生徒宛て、または生徒からのみ発信され、生徒が電話に出ることはございません。重要なお知らせは授業中に生徒全員に配信いたします。生徒は登校前に、クラブ活動やスカウトの会合など、必要な個人的な用事を済ませてください。

校舎の利用

この建物は、スカウト団体、キャンプファイヤー、YMCA活動、4-Hなど、様々な団体でご利用いただけます。いずれの場合も、放課後の団体活動は、資格を有する成人指導者の監督下で行ってください。これらの活動やその他の活動は、学校のウェブサイトから施設許可証と賠償責任保険の証明書類を提出することで予約できます。

休暇ポリシー

休暇のために生徒を学校から連れ出すことはお勧めしません。ただし、保護者がどうしてもそうしなければならないと判断した場合は、できるだけ早く担任と事務室にご連絡ください。

必要に応じて、生徒が学校に戻った際に課題が提供される場合があります。補習課題の完了は保護者の責任となります。生徒には、欠席した授業時間に相当する期間が与えられ、課題を完了することができます。

学校への訪問者

保護者の方は学校を訪問し、お子様の教育に積極的に参加することをお勧めします。

学生の安全のため、学生以外の方は建物に入る際に必ず事務室に報告してください。
教室へ直接行かないでください。不法侵入や滞留は厳重に取り締まります。

お子様への伝言、お薬、宿題、お弁当、お金、備品などを渡す必要がある場合は、事務室までお越しください。授業を中断すると貴重な授業時間が妨げられます。他校の生徒はお子様と一緒に授業を受けることはできません。

退学

生徒を退学させる必要が生じた場合は、事務局までご連絡ください。Chromebookと充電器を返却し、学費の支払い、各コースの成績表を受け取った後、保護者の署名を得た上で、必要な生徒記録を転校先の学校に送付します。転校先の学区から正式な記録依頼を受けるまで、退学手続きはできません。

暴力行為および妨害行為に対するゼロトレランス方針

公立学校の第一の目的は、生徒を安全な環境で

教育することです。この目的は、暴力行為、妨害行為、および／または不適切な行為によって損なわれます。オハイオ州改正法第3313.534条を遵守し、学習プロセスを促進するため、理事会はこのゼロトレランス方針を採用し、学区内の生徒によるあらゆる暴力行為、妨害行為、その他の不適切な行為を明確に禁止します。さらに、理事会は、暴力行為、妨害行為、または不適切な行為を根絶するために、予防から介入まで幅広い戦略を策定しています。

この方針に基づき、学生はあらゆる暴力的、破壊的、または不適切な行為を控えなければなりません。生徒は、学区の生徒行動規範を含むすべての校則と規則を遵守しなければなりません。同様に、生徒はすべての教師、管理者、その他の学校職員の指示に従わなければなりません。この規範は、学区の生徒行動規範が生徒に適用されるのと同じ時間と場所において、生徒に適用されます。

この方針に従わない生徒は、違反の重大性、生徒の過去の犯罪歴、他者の幸福と財産への脅威、その他当該事案において加重または酌量となる可能性のある状況など、具体的な状況に応じて、警告、停学、退学、永久除名など、適切な懲戒処分を受けることになります。委員会は、オハイオ州またはその行政区分の法律に違反する行為を行った生徒の訴追に積極的に協力します。生徒は、この方針に違反した疑いがある場合は、必ず校長に報告することが求められます。

学区の学生行動規範には、この規範に基づいて学生が懲戒処分を受ける可能性のある行為の種類の一部が記載されていますが、すべてが記載されているわけではありません。

差別禁止ポリシー

理事会は、学生、職員、求職者、一般市民、そして理事会と取引のある個人を含むすべての個人が尊厳と敬意を持って扱われる環境の実現に尽力します。理事会は、人種、肌の色、国籍、祖先、市民権、宗教、性別（性的指向および性自認を含む）、経済状況、年齢、障がい、兵役経験、または合法的に取得した遺伝情報に基づく差別を禁止します。

理事会は、以下の個人を地区のコンプライアンス責任者として任命します。

副学長 - タイトル VI コーディネーター
副学長 - Title IX コーディネーター
特別教育ディレクター/コーディネーター - セクション504コーディネーター

コンプライアンス担当者は、アメリカ障害者法第 II 条、1964 年公民権法第 VI 条および第 VII 条、1972 年教育改正法第 IX 条、1973 年リハビリテーション法第 504 条、および 1975 年雇用年齢差別禁止法など、適用される連邦および州の法律と規制に準拠するための学区の取り組みを調整する責任を負います。

コンプライアンス担当者は、差別または報復に関するあらゆる問い合わせや苦情に迅速かつ公平に対応する責任を負います。詳細については、取締役会のポリシーACおよびAC-Rを参照してください。

理事会は、タイトルIXコーディネーターの選定を含む、セクハラに関する独自の方針と手順を制定しています。すべてのセクハラに関する報告は、セクハラに関する方針と手順に従って処理されなければなりません。

苦情は下記までご連絡ください。

第6条（人種、肌の色、国籍）	タイトル IX（性別）	第504条（障害）
クリスタ・クレイツ・ミラー 1100 ブロードアベニュー オハイオ州フィンドレー 45840 419-425-8212	クリスタ・クレイツ・ミラー 1100 ブロードアベニュー オハイオ州フィンドレー 45840 419-425-8212	アンジェラ・ギーザー夫人 1100 Broad Ave. オハイオ州フィンドレー 45840 419-425-8238

このハンドブックに掲載されている校則は、連邦、州、または地域の規制を継続的に遵守するために必要な変更の対象となり、学校の通常の運営に必要な見直しと修正の対象となります。すべての行動規則をガイドブックに書き込んで掲載することはできませんが、生徒には合理的な規則に従い、他者の権利を侵害しないことを期待しています。このハンドブックの規定は、学校、学校敷地内、学校主催の活動、または学校関係者の権限に従うその他の場所でも有効です。これらの規則は、学区が所有する土地、所有する土地の視界内、または学区が管理する土地で発生した活動または事件に不正行為が関連する場合、学校敷地外でも適用されます。これらの規則は、不正行為が学区の役員または従業員、または学区の役員または従業員の土地に向けられた場合にも、学校敷地外に適用されます。